

土器川水系河川整備基本方針の変更について

< 参考資料 >

- ・ 前回（第152回）の説明資料の訂正

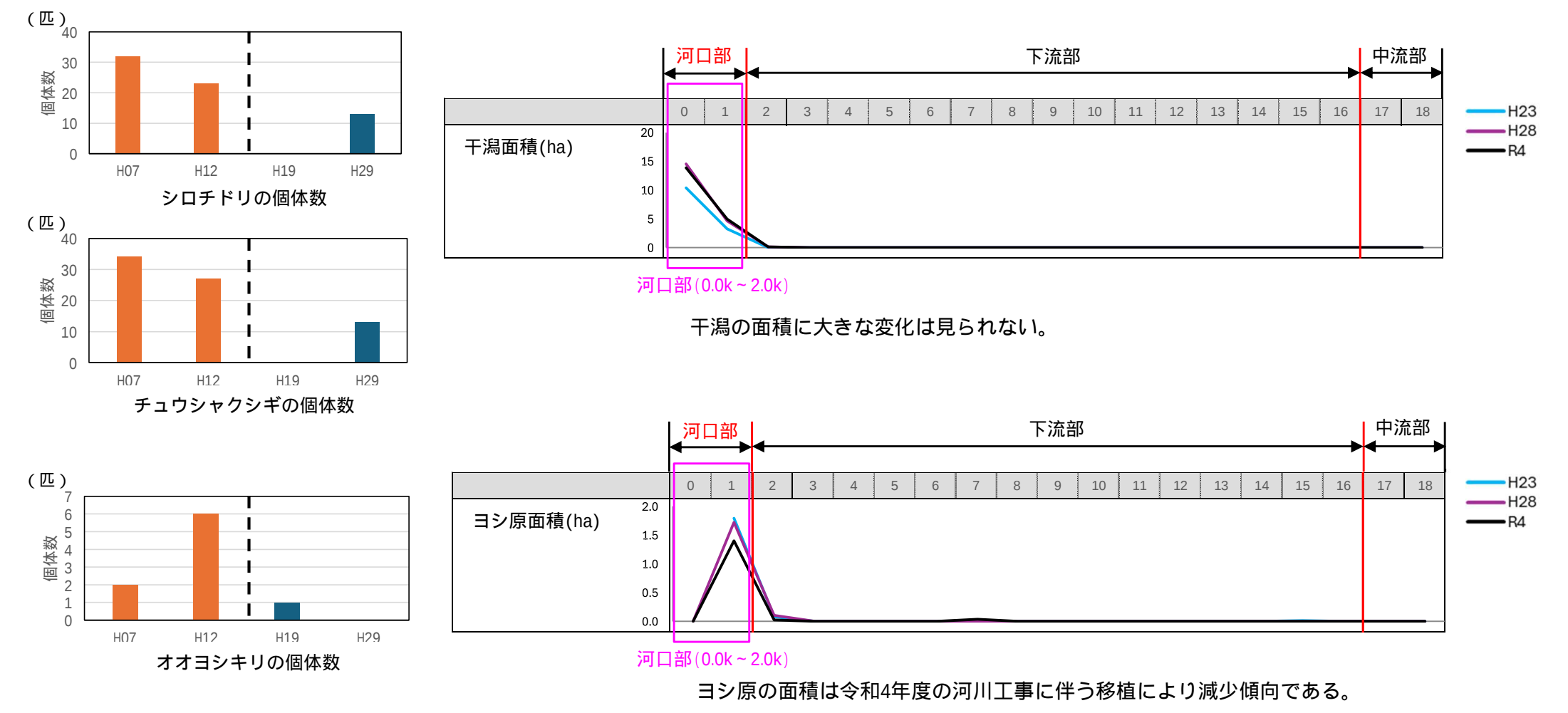
令和 7 年 9 月 5 日

国土交通省 水管理・国土保全局

河川環境・河川利用についての検討

- 土器川河口部（0.0k～2.0k）では、干潟面積に大きな変化がなく、干潟を主な採餌場とするシロチドリとチュウシャクシギの個体数は平成19年は確認されていないが、横ばい傾向である。
- オオヨシキリの個体数は、平成29年に確認されていないが、河川工事に伴うヨシ原の移植の影響と推察される。

土器川河口部に生息する種と干潟、ヨシ原面積の経年変化



鳥類の河川水辺の国勢調査のマニュアル改定に伴い、H19以降は調査方法が異なる。

河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、直近10年間の変化を整理。

土器川河口部の鳥類の確認数は、河川水辺の国勢調査における0.0k～2.0k内の調査地区で確認された個体数の合計。

○土器川中流部（17.0k～18.85k）では、岩河床に設置された固定堰の湛水域が古くから安定して存在し、淵の面積に大きな変化はなく、オオシマドジョウ、カワムツの個体数は概ね横ばい傾向で、ムギツクは増加傾向であるものの、オヤニラミは減少傾向である。

土器川中流部に生息する種と淵面積の経年変化

